

# 七宝焼

## 1 活動の概要

自分自身でデザインしたキーホルダーを作り、思い出をつくることができます。七宝焼の技術を学ぶとともに、製作過程をとおして創造性や活動意欲を高めることができます。また、オリジナルの作品を作り上げることの喜びや楽しさを体験することができます。

## 2 ねらいとして考えられるもの

創作活動を通して、創造性や感性を育む。

## 3 活動時期

通年

## 4 活動場所

創作工作室または研修室

※その日の利用状況や人数によってネイパル職員から指示が出ます。

## 5 活動人数

少人数～最大100人程度（活動場所によって異なります。）

## 6 所要時間

1.5～2時間（人数が多ければ3時間程度かかる場合もあります。準備、制作、後片づけまでを含めての時間です。）

## 7 指導依頼について

- (1) 基本的には、引率または団体指導者の方に直接指導していただきます。事前打ち合わせに来所した際に作成手順について、ネイパル職員が引率または指導者の方に指導します。
- (2) どうしても団体で指導できない場合は、ネイパル職員が指導しますが、他の利用団体の活動状況やネイパル職員の勤務の関係上、全ての指導依頼に答えられない場合があります。
- (3) 指導依頼をした場合でも、全ておまかせの状態にならないよう、参加者の掌握や安全管理について指導補助をお願いします。

## 8 団体が準備するもの

七宝焼教材（ネイパルで購入も可 キーホルダー1個 500円）

引率者及び参加者の役割分担 必要に応じて事前研修

## 9 ネイパルで貸し出しできるもの

- 電気がま2台 □七宝焼き用絵の具 □七宝焼き用具一式  
□掃除用具、ふきん（机用、床用）、新聞紙

## 10 活動に関わって

### (1) 実施上の留意点

- ①電気がまには作品を1個ずつ入れなければならないので、人数によって活動時間が変わります。
- ②1つのテーブルには5～8名程度で座っていただきますので、事前にグループ分けをお願いします。
- ③絵の具が溶けることを考え、あまり細かい模様はさけた方がよいでしょう。
- ④安全管理には十分気を配り、特に電気がまの使い方には十分注意してください。
- ⑤利用人数が多い場合などは、事前にデザインを考えて、スケッチを持参していただくと、活動時間に余裕が生まれます。

### (2) 展開例

活 動	内 容	時間例
用具の準備	①活動30分前～1時間前に電気がまのスイッチを入れておく。 ②個人で準備するもの 竹ぐし（1）、研磨マット（1）、板（1）、金網（1）、キーホルダー（1） ③テーブルに準備するもの 絵の具セット〔ガラスの粉〕（1）、水入れ（2）、木工用ボンド（2） トイレットペーパー（1）、鉄やすり（1）、新聞紙、ふきん	10分
説明	①七宝焼は金属の（銅板）表面にガラスの粉を熱（約800℃）によって融かしつけたものであるということ。 ②絵の具〔ガラスの粉〕は混ざらない。（例：赤+白=ピンクにはならない） ③違う色に移る場合は、必ず竹ぐしを洗う。（純粋にその色が出なくなる） ④方法（2度焼き）：1度目は背景になる色をのせて焼き、2度目は模様をのせて焼く。 ※活動時間や人数によっては、1度焼きで対応。	10分
創作手順	①袋からセットを取り出し金属台と銅板に分ける。 ※はずれにくい場合は、机の上で軽くたたいてみる。 ②銅板を磨く。 ※板の上に銅板をおき、全体を研磨マットで色が変わるまで磨く ③絵の具を盛る。 ※背景の色を決め絵の具を1mm位の厚さで平らに、なめらかにおさえるように盛る。 ※銅板からはみ出さないように注意する。	

<p>創作手順</p>	<p>ア) 絵の具がパサパサの場合、水を少し足す。  イ) 絵の具が水っぽいときは、ケースに竹ぐしをあて静かに水をすてる。</p> <p>④余分な水分をとる。  ※トイレトペーパーでこよりをつくり、静かに盛りつけた絵の具の上にあて、水気を吸い取る。</p> <p>⑤1度目を焼く。  ※電気がまの中の温度は約800℃なので、作業は慎重に。  ア) 金あみの上にそろりと銅板をうつす  イ) 手袋をはめ、火ばさみで金網をはさみ、電気がま(中の台の上)に入れ焼く。  ウ) 粒々が溶け、つるんと光ると焼き上がり(約1分)。</p> <p>⑥電気がまから出す。  ※皮手袋をし、火ばさみで金網ごと取り出す。  ※電気がま横にある置き板の上へ移し、少し冷えるのを待ってから板の上に載せ替える。  ※銅板は非常に熱いため、ゆっくり冷えるのを待つ(約15分)</p> <p>⑦模様を盛る。  冷えたら、③④と同じ要領で模様を入れる。</p> <p>⑧2度目を焼く。  ※かまの中の温度は約800℃なので、作業は慎重に。  ア)、イ)は1度目と同じ。  ウ)模様の粒々が溶け、つるんと光ると焼き上がり。  ※模様によって時間が違います。</p> <p>⑨電気がまから出す。  ※皮手袋をし、火ばさみで金網ごと取り出す。  ※電気がま横にある置き板の上へ移し、少し冷えるのを待ってから板の上に載せ替える。  ※銅板は非常に熱いため、ゆっくり冷えるのを待つ(約15分)</p> <p>⑩金属台にはめる。  ※はまらない場合は、鉄ヤスリで削る。</p> <p>⑪ボンドで接着。  ※金属台に木工用ボンドを付けて枠にはめる。</p> <p>⑫完成。</p>	<p>1～2時間</p>
<p>後片づけ</p>	<p>①使用した用具をきれいに洗い、水気をきれいに拭き取って片付ける。  ②テーブルの上をきれいに拭く。  ③いすをテーブルの上にあげて、床を掃く。  ④流しまわりの床が汚れていたらぞうきんで拭く。  ⑤指導者による点検。  ⑥終了。</p>	<p>20分</p>